

病害虫発生予報 第3号

富山県農林水産総合技術センター所長

6月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期
水稲	いもち病（葉いもち）	やや多い	並	果樹	白ねぎのネギハモグリバエ	多い	並
	紋枯病	多い	並		果樹のカメムシ類	並	並
	斑点米カメムシ類				リンゴの輪紋病	並	並
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	並	—		リンゴの褐斑病	やや多い	並
	アカスジカスミカメ	並	—		リンゴのキンモンホソガ	少ない	並
	トゲシラホシカメムシ	並	—		ニホンナシの黒星病	やや多い	並
	ニカメイガ	並	早い		ニホンナシの輪紋病	少ない	並
	イネミズゾウムシ	並	—		ニホンナシのナシヒメシンクイ	並	並
	イネドロオイムシ	並	—		ニホンナシのハマキムシ類	やや多い	並
	ツマグロヨコバイ	少ない	—		リンゴ・ニホンナシのハダニ類	並	やや早い
大豆	茎疫病	やや多い	並	ブドウの灰色かび病	並	並	
	タネバエ	やや多い	並	ブドウのべと病	やや少ない	並	
	ネキリムシ類	並	—	カキ（三社）のフジコナカイガラムシ	並	並	
野菜	タバコガ類	並	並	モモのせん孔細菌病	やや多い	並	
	ネキリムシ類	並	—	チューリップの球根腐敗病	やや多い	—	
	白ねぎのさび病	やや多い	並	チューリップのアブラムシ類	並	—	
	白ねぎのネギアザミウマ	並	—	タバコガ類	並	並	

富山県農林水産総合技術センター

農業研究所 病理昆虫課

TEL 076-429-5249

FAX 076-429-7974

情報参考 URL

<http://www.pref.toyama.jp/branches/1661/index.html>

I 水 稻

1 いもち病（葉いもち）

(1) 予報内容 発生量：**やや多い**
発生時期：並

(2) 予報の根拠

【多発要因】

・6月の気象は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・放置されている補植苗は、速やかに抜き取り処分する。
- ・平年の初発日は7月7日であるが、気象条件によっては6月中旬に確認されることがあるので、BLASTAM情報（農業研究所ホームページ）をもとに、ほ場観察を励行し、早期発見・早期防除に努める。
- ・防除指針 28～29 ページ参照

2 紋枯病

(1) 予報内容 発生量：**多い**
発生時期：並

(2) 予報の根拠

【多発要因】

・前年9月5日調査では、発病株率が13.6%で、平年（8.7%）より高かった。

(3) 防除対策

- ・平年の初発確認日は6月22日であるので、ほ場の観察に努める。
- ・防除指針 27～28 ページ参照

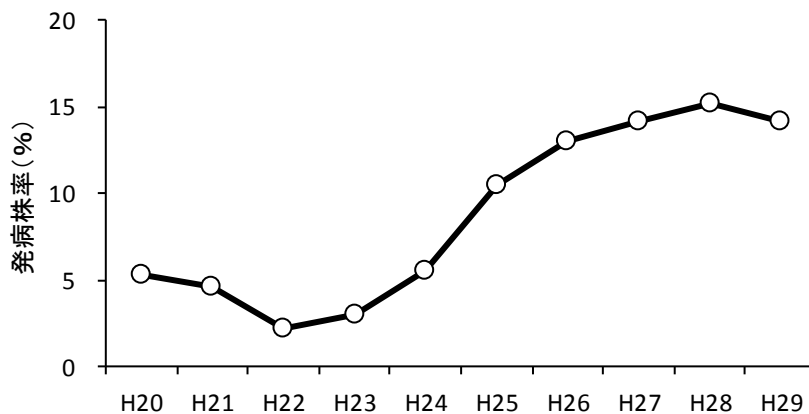


図1 紋枯病発病株率の年次推移（9月5日調査）

3 斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 5月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り20回虫数は1.02頭で平年（1.51頭）よりやや少なかったが、確認地点率は33.3%で平年（34.5%）並であった。

(3) 防除対策

- ・ 畦畔等のイネ科雑草の穂が出ないように草刈りに努める。
- ・ 防除指針 40～42ページ参照

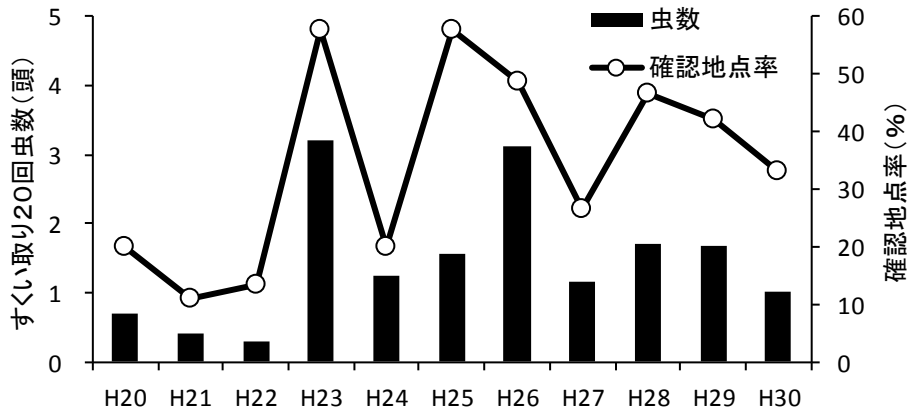


図2 アカヒゲホソミドリカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（5月20日調査）

4 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 5月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り20回虫数は0.24頭で平年（0.82頭）より少なかったが、確認地点率は13.3%で平年（15.3%）並であった。

(3) 防除対策

- ・ 畦畔等のイネ科雑草の穂が出ないように草刈りに努める。
- ・ 防除指針 40～42ページ参照

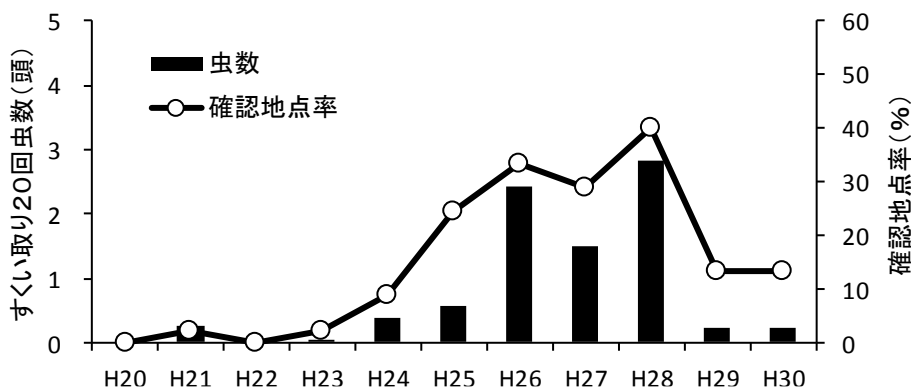


図3 アカスジカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（5月20日調査）

5 斑点米カメムシ類（トゲシラホシカメムシ）

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・5月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り20回虫数は0.04頭で平年（0.07頭）並、確認地点率も2.2%で平年（4.7%）並であった。

(3) 防除対策

- ・畦畔等の雑草管理に努める。
- ・防除指針 41～42ページ参照

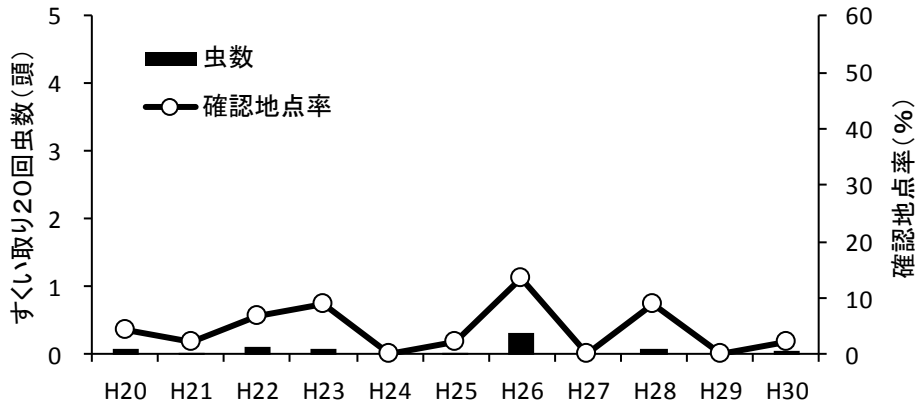


図4 トゲシラホシカメムシの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（5月20日調査）

6 ニカメイガ（第1世代）

(1) 予報内容 発生量：並

発生時期：早い

(2) 予報の根拠

- ・前年の越冬前10a当り生幼虫数は78頭で平年（155頭）よりやや少なかったが、本年の予察灯およびフェロモントラップへの誘殺数は一部地域で多かった。

【早発要因】

- ・予察灯およびフェロモントラップへの越冬世代成虫初飛来日が平年より早かった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 34～35 ページ参照

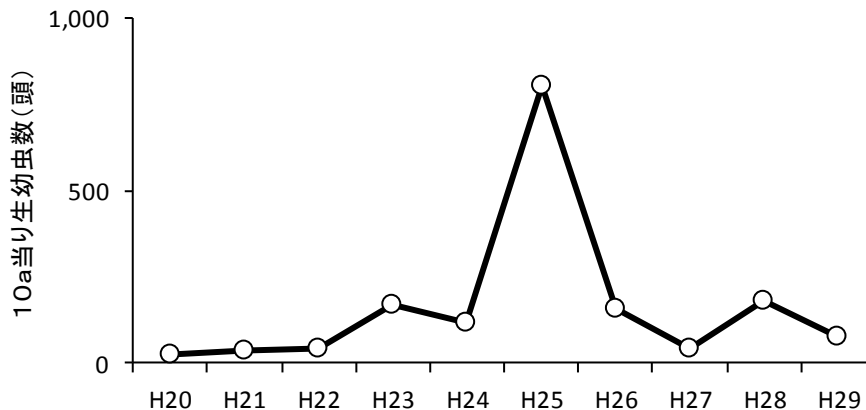


図5 ニカメイチュウの生幼虫数年次推移（越冬前調査）

7 イネミズゾウムシ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 5月20日調査では被害葉率が0.27%で、平年（0.25%）並であった。
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針 34ページ参照

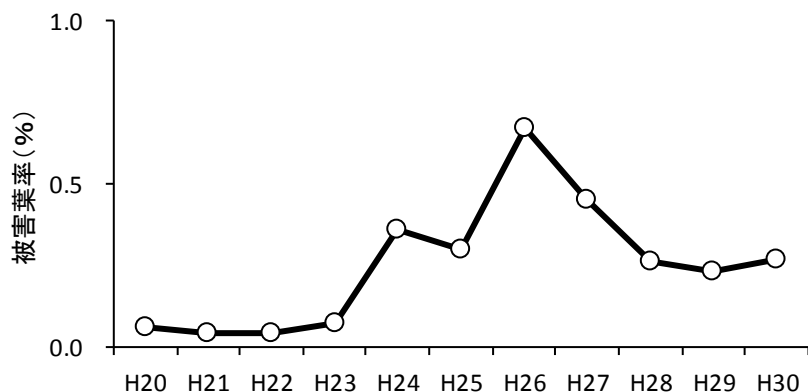


図6 イネミズゾウムシの被害葉率年次推移（5月20日調査）

8 イネドロオウムシ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 前年6月20日（被害盛期）の調査では、被害葉率が0%で、平年（0.01%）並であった。
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針 35ページ参照

9 ツマグロヨコバイ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - 【少発要因】
 - ・ 越冬後調査のすくい取り20回虫数は0頭で、平年（0.6頭）より少なかった。
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針 37ページ参照

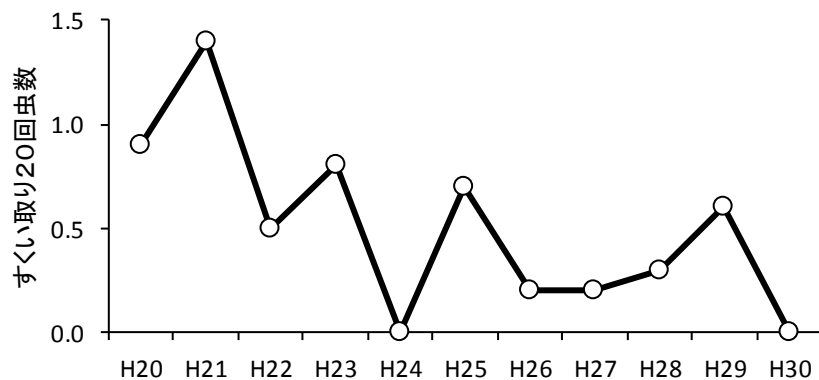


図7 ツマグロヨコバイのすくい取り状況年次推移（越冬後調査）

Ⅱ 大豆

1 茎疫病

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・6月の降水量は平年並か多いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・ほ場の排水に努める。
- ・防除指針 51～52 ページ参照

2 タネバエ

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・6月の気象は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・早期播種や堆肥及び緑肥施用ほ場では、被害が多くなるので防除を徹底する。
- ・ほ場の排水に努める。
- ・防除指針 51、53 ページ参照

3 ネキリムシ類（タマナヤガ、カブラヤガ）

- (1) 予報内容 発生量：並

- (2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる5月1～5半旬までの誘殺数は、タマナヤガ 21.9 頭(平年 31.6 頭)、カブラヤガ 118.3 頭(平年 140.2 頭)で、ともにほぼ平年並となっている。

- (3) 防除対策

- ・出芽後定期的にはほ場を見回り、食害の早期発見に努める。
- ・ほ場周辺の雑草は、は種の一週間程前に刈取る。
- ・防除指針 51 ページ参照
- ・末尾に参考資料

Ⅲ 野菜

1 タバコガ類（タバコガ、オオタバコガ）

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる5月3～5半旬の誘殺数は、タバコガ 1.0 頭(平年 0.6 頭)、

オオタバコガ 2.0 頭(平年 1.6 頭)で、ともに平年並となっている。

(3) 防除対策

- ・防除指針 79～144 ページ参照

2 ネキリムシ類 (タマナヤガ、カブラヤガ)

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる 5 月 1～5 半旬までの誘殺数は、タマナヤガ 21.9 頭(平年 31.6 頭)、カブラヤガ 118.3 頭(平年 140.2 頭)で、ともにほぼ平年並となっている。

(3) 防除対策

- ・防除指針 81～144 ページ参照
- ・末尾に参考資料

3 白ねぎのさび病

(1) 予報内容 発生量：やや多い

発生時期：並

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・6月の気象は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・防除指針 110 ページ参照

4 白ねぎのネギアザミウマ

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・5月25日の調査では、被害株率が8.0%で平年(7.0%)並であった。
- ・6月の気温は高いが、降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・防除指針 112～113 ページ参照

5 白ねぎのネギハモグリバエ

(1) 予報内容 発生量：多い

発生時期：並

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・5月25日の調査では、被害株率が7.0%で平年(0.5%)より高かった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 112 ページ参照

IV 果 樹

1 果樹のカメムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量：並
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
・フェロモントラップによる5月1～4半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は8.4頭で
平年(8.0頭)並である。
- (3) 防除対策
・山林に近い園地などでは発生に注意し、飛来が認められた場合は防除を実施する。
・防除指針 リンゴ152, 157, 160, 161ページ、ニホンナシ163, 168, 171ページ、カキ178,
181ページ参照

2 リンゴの輪紋病

- (1) 予報内容 発 生 量：並
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
・前年の発生量は平年並であった。
- (3) 防除対策
・梅雨期間中は重要防除時期であるので、殺菌剤の散布間隔が開きすぎないように注意し、
降雨前に散布する。
・防除指針 152, 155, 159, 160ページ

3 リンゴの褐斑病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
【多発要因】
・前年の発生量はやや多かった。
- (3) 防除対策
・梅雨期間中は重要防除時期であるので、殺菌剤の散布間隔が開きすぎないように注意し、
降雨前に散布する。
・防除指針 152, 154, 155, 159, 160ページ参照

4 リンゴのキンモンホソガ

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
発生時期：並
- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる5月1～4半旬の誘殺数は0頭で平年(87.9頭)より少ない。

(3) 防除対策

- ・6月上旬(第1世代成虫発生盛期)は重要防除時期なので、防除を丁寧に実施する。
- ・防除指針152, 156, 157, 160, 161ページ参照

5 ニホンナシの黒星病

(1) 予報内容 発生量: やや多い

発生時期: 並

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・現在までの発生量はやや多い。

(3) 防除対策

- ・黒星病に感染した果実や葉は見つけ次第除去する。
- ・殺菌剤の散布間隔が開きすぎないように注意し、降雨前に散布する。
- ・防除指針 163, 165, 166, 170ページ参照

6 ニホンナシの輪紋病

(1) 予報内容 発生量: 少ない

発生時期: 並

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量は少なかった。

(3) 防除対策

- ・梅雨期間中は重要防除時期であるので、殺菌剤の散布間隔が開きすぎないように注意し、降雨前に散布する。
- ・防除指針 163, 165, 166, 170ページ参照

7 ニホンナシのナシヒメシンクイ

(1) 予報内容 発生量: 並

発生時期: 並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる5月1～4半旬の誘殺数は3.1頭で平年(3.3頭)並である。

(3) 防除対策

- ・6月上中旬の防除を確実に実施する。
- ・防除指針 163, 167, 168, 171 ページ参照

8 ニホンナシのハマキムシ類

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・フェロモントラップによる5月1～4半旬の誘殺数は21.0頭で平年(6.2頭)よりやや多い。

- (3) 防除対策

- ・多発園では成虫発生盛期の7～10日後に防除を実施する。
- ・防除指針163, 167, 171ページ参照

9 リンゴ・ニホンナシのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：**やや早い**

- (2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は平年並であった。

【早発要因】

- ・6月の気温は高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・防除指針リンゴ152, 156, 158ページ ナシ163, 169, 171ページ参照

10 ブドウの灰色かび病

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

- ・これまでの発生はやや少なかったが、6月の降水量は平年並か多いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・落花後の防除は丁寧に実施する。
- ・袋かけ前に果房に花カスが残らないように取り除く。
- ・防除指針174, 175, 176ページ参照

11 ブドウのべと病

- (1) 予報内容 発生量：**やや少ない**
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量はやや少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針174, 175, 176ページ参照

1 2 カキ（三社）のフジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量：並

発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる5月1～4半旬の誘殺数は129.5頭で近年（147.4頭）並であった。

(3) 防除対策

- ・6月下旬～7月上旬（第1世代孵化幼虫発生期）が重要防除時期であるので、孵化を観察し防除を丁寧に実施する。
- ・防除指針178, 181ページ参照

1 3 モモのせん孔細菌病

(1) 予報内容 発生量：やや多い

発生時期：並

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・春型枝病斑の発生量はやや多い。

(3) 防除対策

- ・果実への被害を防ぐため、防除を丁寧に実施するとともに6月中旬までに袋掛けを終わらせる。
- ・防除指針 183, 184, 186ページ参照

V 花き・球根

1 チューリップの球根腐敗病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
(2) 予報の根拠

【多発要因】

・6月の気温は高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・発病株の抜き取りを徹底する。
- ・適期の掘り取りに努める。
- ・掘り取り後は速やかに水洗・乾燥する。
- ・防除指針：198～199 ページ参照

2 チューリップのアブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：並
(2) 予報の根拠

・チューリップ予察ほ場での有翅虫飛来数はやや少ないが、6月の気温は高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・中生・晩生品種は生育後半まで定期的に薬剤を散布する。
- ・防除指針：199、223～224 ページ参照。

3 タバコガ類（タバコガ、オオタバコガ）

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

・フェロモントラップによる5月3～5半旬の誘殺数は、タバコガ1.0頭(平年0.6頭)、オオタバコガ2.0頭(平年1.6頭)で、ともに平年並となっている。

- (3) 防除対策

・防除指針 208, 216, 218, 224, 228 ページ参照

- ・農薬の使用にあたっては、使用回数、使用時期等の使用基準を遵守する。
- ・周辺作物や住宅地等への農薬の飛散防止に努める。

北陸地方 1か月予報

(6月2日から7月1日までの天候見通し)

平成30年5月31日
新潟地方气象台 発表

<特に注意を要する事項>

期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>

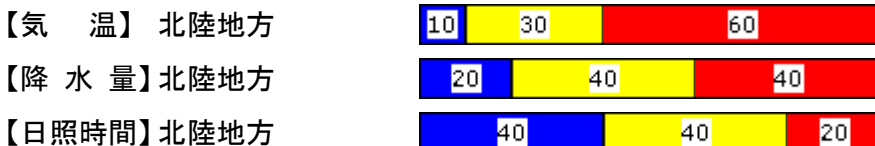
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

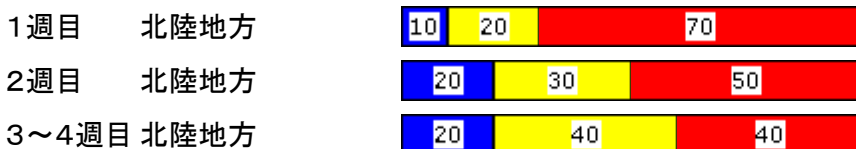
週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: 低い(少ない) 平年並 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: 低い 平年並 高い